

（チャンス） 障害者に働く機会を！
 （チャレンジ） 挑戦する勇気を！
 （チャレンジ） よりよい改善を！

翔

SELP

石川セルプ news

発行 石川県社会就労センター協議会
 編集 石川セルプ振興センター

第 1 号

働く仲間（聖ヨゼフ苑作業所より）

セルプ（社会就労センター）とは

障害を持つ人達が働く施設のことをセルプ（社会就労センター）といいます。ここでは働く意志がありながら、職業に就く機会に恵まれない人達を対象にして、社会的自立のための訓練を行うとともに、経済的自立支援をするために生産・販売活動も行っています。セルプとは英語で自立自助を意味するSELF-HELPから造られた造語です。主体的な意志を持って自立することは、すべての人に共通する課題でもあります。セルプという言葉には障害を持つ人が自立をめざして働くことに挑戦するという願いが込められています。

セルプ振興センターとは

心身にハンディキャップを持つ人たちが、社会就労センターや小規模作業所などで自立を目指し、いろいろな生産・販売活動に励んでおります。このような活動の充実を図るために、施設間の壁を取り払ったバザールの開催、セルプ製品の紹介・斡旋や委託作業の受注拡大などの事業を展開し、施設利用者の賃金水準の引き上げ、経済的自立、社会参加の促進を支援していく団体がセルプ振興センターです。石川セルプ振興センターでは平成9年発足より、県内施設一体となり振興センターを運営しています。

セルプ協の飛躍をめざして

石川県社会就労センター協議会
会長 湊 孝次郎

授産事業に共通の目的・機能・存在意義を端的に表す名称として、社会就労センター／セルプと改称され、再出発したのが2年前になります。

単に名称の変更にとどまることなく、意識改革、体質改善を目指し、中央の動きに呼应しながら、石川のセルプ協も日常活動を点検し、それぞれの施設の在るべき姿の追求と施設間の連携の強化に努めてまいりました。

今年度正式に石川セルプ協に「振興センター運営委員会」を組織し、①販売促進、②調査・広報、③商品開発、④研修・研究の4部会を設置して活動を開始しました。

現在県内に23の施設がそれぞれ独自製品の開発に努力し、5、6年前から見ると様変わり状態にあります。

これらの商品のバザールも、今年度は金沢中心でなく、加賀、能登地区にも開催し、また各種イベントにも積極的に参加して、セルプのアピールと製品の販売を行っております。

こうした行動を通して、セルプの存在価値を理解してもらうだけでなく、いかに存在価値を付与していくのが問われています。

また消費者のニーズにいかに対応していくか。商品を生産し、販売し、工賃を得るといった活動を通して、一人ひとりの自立と社会参加を図って行くことが今、問われています。

忌憚のないご批判とご助言とご支援をいただければと願っております。

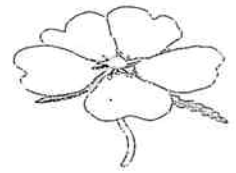
なお、現在県内30の小規模作業所もセルプ協に加入して共に歩んで下さることをお待ちしております。

機関紙発刊にあたって

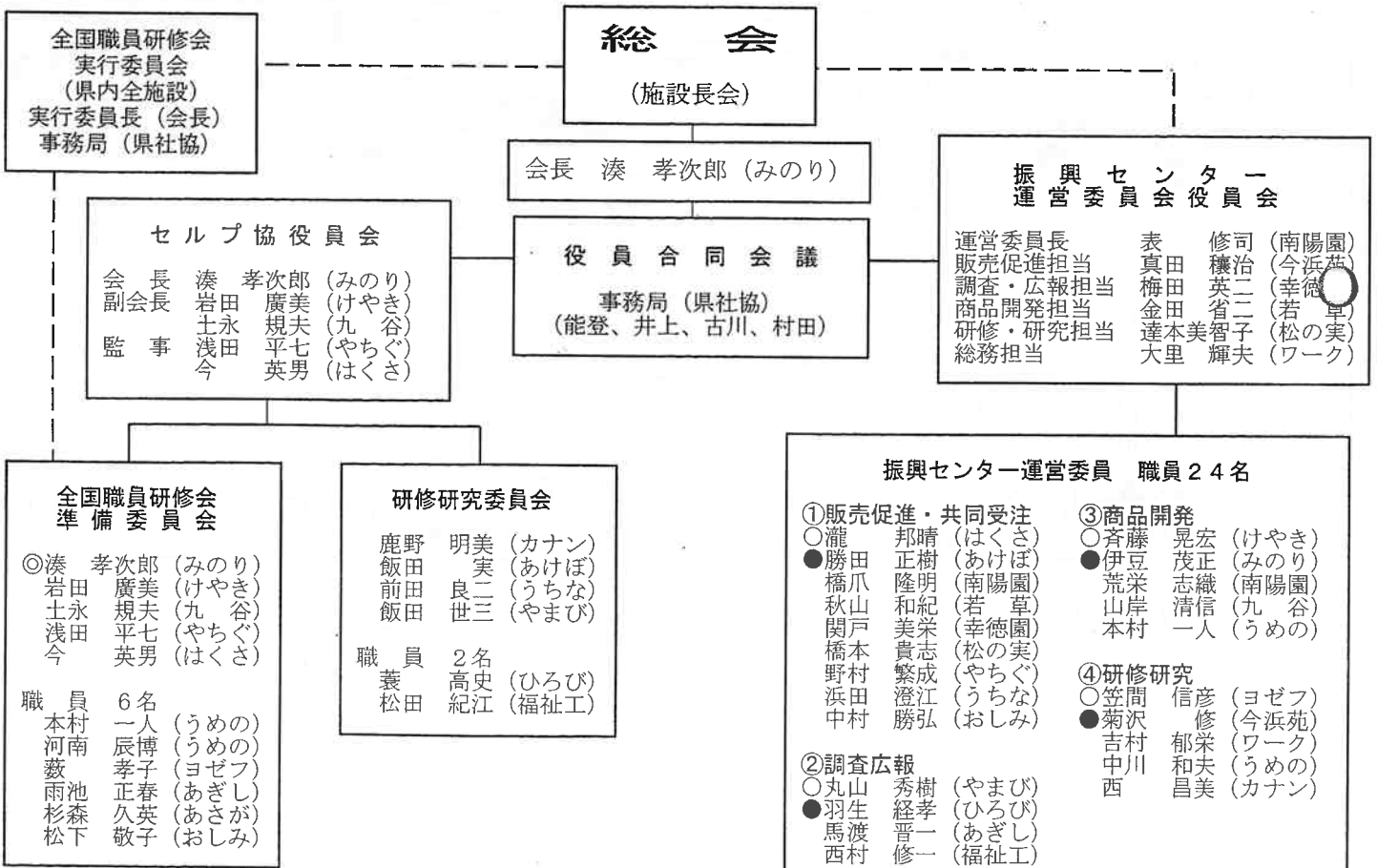
石川県社会福祉協議会
専務理事 能登 稔

石川県社会就労センター協議会の機関紙創刊号の発刊をお祝い申し上げます。この機関紙の発刊は、障害者の方々が自立更生を目指しながら、施設において働いている状況を情報として発信し、広く県民に理解を求め、より多くの制作品の購入に協力をして頂けるのではないかと考えております。また、施設内で行われる行事や利用者の状況等お互いに情報を紙面で交換し、お互いの施設での処遇の向上が図られるのではないのでしょうか。

戦後培われた福祉の制度が今、大きく変わりつつあります。障害福祉についても、厚生省の障害関係3審議会合同企画分科会では、障害の種別や障害程度で細分化された施設について「障害者施設体系の見直し」が検討され、全国社会就労センター協議会では、授産施設の位置づけ及び授産施設の体系問題について検討を行っております。身体障害者施設についても、医療ニーズに対応すべき療護施設の在り方等について検討がされています。しかし、制度が大きく変わろうとも、長く築かれた福祉の心は大きく変わるものではありません。利用者の立場に立った福祉をこれからも進めていきたいと思います。



平成9年度石川県社会就労センター協議会事業推進体制



- ◎は委員長、○は部長、●は副部長
- 県内施設数 23施設
- 各施設から2名担当 (施設長含む。施設長が出ていない場合職員2名)
- 全国職員研修会委員会は当日実際に行動する組織で、準備委員会が県内全施設を対象に別に定める。

明日に向かって

石川セルフ振興センター
運営委員長

表 修司

授産施設から社会就労センター／セルフに名称が変更になり、早2年が経ちましたが、みなさんのところはどのように変わりましたか。「CI戦略」という言葉もよく聞かれますが、一口で言えば意識改革・体質改善であります。いくら名称だけが変わっても、施設長をトップとした職員はもちろん、施設利用者の意識が変わらなければ、何の意味もありません。

本年、石川セルフ振興センターが、石川県社会就労センターの内部組織として発足しました。社会就労センターは利用者に対して、作業技術指導や働く意欲を育むといった指導的要素も持っております。一方セルフ振興センターは、利用者が一生懸命創作した製品を商品としてどのようにし

たらこの世に送り出すことができるのか、そのためには、どのようにしたら売れるのか、お客様にどこまで信頼を得られるかといった販売の役割を担っております。

社会就労センターは、唯一福祉施設では経済活動が許され、そこで働いている利用者に工賃を支払わなければなりません。当然、働く者としては少しでも多くの工賃を望み、自分たちの存在価値を認めて欲しい訳で、我々はそれに応えなければなりません。このことは至難の技で、生半可な気持ちでできるものではありません。そして、利用者である障害者に対し、貴方は重度だから、世の中不景気だからといった言い訳も効きません。なぜなら私たちは紛れもなくセルフのプロだからです。湊会長の指針にもあるように「汗をかき、歩きながら考える。」利用者、職員が一体となり、同じ価値観を持ち、夢をつかむ石川セルフ振興センターにしようではありませんか。

石川セルフ振興センター 1年目 何をやるのか?

ポイント

- ①各施設で運営組織化一新、機動的
- ②加盟全施設で販売拠点(搬入・搬出委託)
- ③法外施設2準会員制度
- ④本年度は手数料10%

セルフ振興センター

振興センター運営委員会役員会

目的

施設の経済活動の発展
利用者の経済的自立

手段

製品・事業開発、販路拡大
官公需、民間の受注確保

販売促進 共同受注部

- ①バザールの開催
- ②イベントの出張販売
- ③記念品等の共同受注

調査・広報部

- ①各種調査実施
- ②宣伝・PR事業

商品開発部

- ①研究開発会実施
- ②商品販売研修会実施
- ③商品カタログ作成

研修・研究部

- ①合同研修会実施
- ②販売手数料の検討
- ③バザールのあり方、名称検討

販売促進・共同受注部

部長 瀧 邦 晴 (セルフはくさん)

“商い”に強くなろう!

『販売促進』という言葉は福祉分野ではセルフ以外には使われることはありません。馴染み薄い言葉かと思います。販売促進・共同受注部は何をするのでしょうか?

要旨をまとめると下図のようになります。

振興センターの今年度の売上目標は500万円です。先日、嬉しい知らせが届きました。ジャスコ社の里店でのバザール直前に目標を達成したとのこと。各々セルフのご支援と共にお買い上げ頂いたお客様のご協力に感謝申し上げます。あとは積み上げていくのみです。少しでも前向きに行きたいと思っております。尚、11月20日までの売上金額は次ページ表の通りとなっております。

今年も残り少なくなってきましたが、加盟施設、スタッフのご支援をよろしくお願いします。

●セルフバザールのプランニング

5月	金沢ブロック	ジャスコ	樹の実
7月	加賀ブロック	ジャスコ	幸徳園
10月	能登ブロック	アルプラザ	身浜苑
11月	金沢ブロック	ジャスコ	若草

10%手数料

●官公庁、企業団体等の共同受注

記念品、粗品

調査、アンケート等実態調査
販促ツールの作成(案内状、カタログ等)

10%手数料

●各種イベント出張販売 10%手数料

- ① 施設単位 希望施設募集→調整個別対応
- ② まとめて販売 施設は商品提供、販売は一括

売れ筋データ化、マーケット調査

課題点

赤字を出さない(会場設営)
施設→顧客志向への脱皮
生活者視点商品開発
売れる商品展示
統一・秩序アピール
正しいセルフの理解浸透

出店バザール・イベント一覧

11月20日現在

区 分	期 間 / 場 所	売 上 金 額	参加施設数
第1回セルフバザール	5月3日～5日 北陸ジャスコ松任店	769,750	11
日本看護サミット	7月3.4日 厚生年金会館	364,175	6
第2回セルフバザール	7月17～21日 北陸ジャスコ加賀の里店	648,081	16(内小規模1)
星ヶ丘コンサート	7月27日 星ヶ丘牧場	69,230	6
福祉まつり	8月24日 金沢いきいき魚市広場	91,460	6
南陽園バザー	9月7日 南陽園前広場	183,390	3
福祉まつり	9月23日 コスマアイル羽咋	310,030	6
全国セルフ職員研修会	10月7～9日 加賀観光ホテル	247,700	12
第3回セルフバザール	10月10～12日 アルプラザ鹿島	1,008,625	18(内小規模2)
石川県社会福祉大会	10月21日 根上町総合文化会館	87,840	6
若草福祉祭	11月2日 若草福祉作業所	37,750	2
コマツフェスタ	11月3日 小松市総合運動公園	196,935	5
いしかわ学びフェスタ	11月8.9日 加賀市文化会館	130,400	3
障害者フェスティバル	11月16日 石川県産業展示館	553,875	16
生協まつり	11月16日 こまつドーム	320,345	6
第4回セルフバザール	11月22日～24日 ジャスコ社の里店		20(内小規模3)
合 計		5,019,586	

調査・広報部

部長 丸山 秀 樹 (やまびこ学園)



調査・広報部の活動は、広報活動と調査活動の2つに大きく分けられます。

加賀市ジャスコ店で行った広報活動などを例に取りながら、調査・広報部の活動内容を紹介いたします。

ジャスコ加賀店でのセルフバザールは、セルフ振興センターが組織されて最初の、加えて加賀地区では初めての企画でした。広報活動の効果的な手段は、各種報道機関の活用です。各種報道機関や関係施設のリストを作成し、それらを元に、直接機関等に出向き、企画を説明し、記事として取り上げてもらえるようにすることが望まれましたが、今回は時間もないことから、石川県庁の記者クラブにバザールの企画・案内文を持ち込み、報道をお願いしました。

加賀地区への広報活動としては、加賀市社会福祉協議会が発行する、全戸配布の機関誌に、「石川SELFPバザール開催」の知らせを掲載いたしました。

加賀市、小松市、山中町などの福祉関係施設には、かわいいイラストを使った親しみやすい案内文を作成し送付しました。またこれは、バザール期間中、レジ横に置き、購買者に自由に持ち帰っていただきました。

加えて、中央セルフ協よりSELFPポスターとチラシを、それぞれ100枚程度取り寄せ、バザール・イベント等での活用もはかっています。これらが、ジャスコ加賀店における広報活動です。

その他の活動としては、イベント情報の収集やチラシの企画などが挙げられます。まず、販売の機会を増やすために、今年度石川県内で行われる各種イベント情報を集め、販売促進・共同受注部により、販売として有効なものが選択され、順次各社会就労センターにその情報が提供されています。

また、現時点では、セルフの存在自体があまり知られていないことから、社会に広く社会就労センターの存在と役割を知らせることを目的に、チラシの制作も企画検討しています。

もう一方の調査活動を紹介します。調査活動には、バザールのアンケートや新聞折り込みの効果(どちらもアルプラザ鹿島にて実施)調査などが挙げられますが、なんと言っても中心となるのは「施設実態調査」の実施です。現在、施設は制度改革やCI導入の影響から、その経営形態も変わりつつあるようです。そのような施設の実態を調査し、また、施設がそれを活用できるような調査をするため、現在その調査項目作りを進めています。これは、来年度の春に実施を予定しています。

商品開発部

部長 斉藤 晃 宏 (けやき野苑)



商品開発部では、下記の3つの事業を行っています。

商品販売研修会の開催

9月4日(木)に石川県社会福祉会館において、第1回商品販売研修会を開催しました。講師にはセルフバザールでいつもお世話になっている北陸ジャスコ株式会社 社会貢献・お客様サービス推進室長兼社会貢献活動推進課長 吉村志良氏、松任店販売推進課長 浜松俊明氏をお招きし、「マーケティング入門」～売れるしくみをつくるヒント～という演題で講演を行っていただき、講演後はセルフバザールの批評や商品の販売方法(陳列・パッケージ等)に対しての具体的なアドバイスも行っていました。

講演後に行ったアンケートにより、今後、このような形式の講演を企画してほしいという意見が多かったため、テーマを変えながら定期的に開催していきたいと考えています。

石川セルフ商品カタログの作成

「多くの人にカタログを見てもらいたい。」「各社会就労センターの新商品に逐次対応していきたい。」ということから、大量の部数を発行し、かつ、短いサイクルでカタログを更新していくために、チラシ形式で作成するということになりました。

これと平行して、常に新しい商品カタログを提供していきたいということで、インターネット上に最新の商品カタログを掲載する方向で検討も進めています。



第1回商品販売研修会

セルフ商品開発会議の開催

各施設の商品を主体とし、今までの商品に改良を加えたり、各商品を組み合わせた新しいセット商品づくりを検討し提案をしていきます。これに関しては商品カタログ作成後に行う計画でいますので、来年度からの活動となります。具体的な提案を行っていくつもりですので期待して下さい。

研修・研究部

部長 笠間 信彦 (聖ヨゼフ苑作業所)



合同研修会の開催

福井県のセルフ協では、石川セルフ振興センターが、やろうとしている活動を数年前から行って、特に指導員の方々の活動も活発とのことで、福井県に学ぶためにも合同の研修会を今年度行うことになりました。

今回は第1回目ということで、福井県が主体となり準備をしていただき、12月1日、2日、福井県芦原温泉で行われます。

手数料の検討

今年度は、手数料を10%としていますが、来年度に向けて手数料を検討しています。他の都道府県のセルフ振興センター何ヶ所かを調べたところ、20%・15%・10%・7%・5%・3%とさまざまな数値が出てきました。

販売手数料は、振興センターの活動、また、将来のセルフのことを考えるとたいへん意味深い必要経費であると言えます。

手数料については、年度末にアンケートを行い、適正な手数料を検討していきたいと考えています。

バーコードの導入について

現在、セルフバザールなどでは、各施設の商品に施設番号の入った値札をつけてもらい商品管理をしています。売上集計などにとっても手間がかかっています。バーコードの導入に向けて検討を進めています。

バーコードの登録費用やコンピュータなどの費用が100万円以上ということです。そのため補助金の申請を検討しています。資金のめどが立てば導入となりますので、具体的な問題点を今後検討していきます。

石川セルフニュースの発行

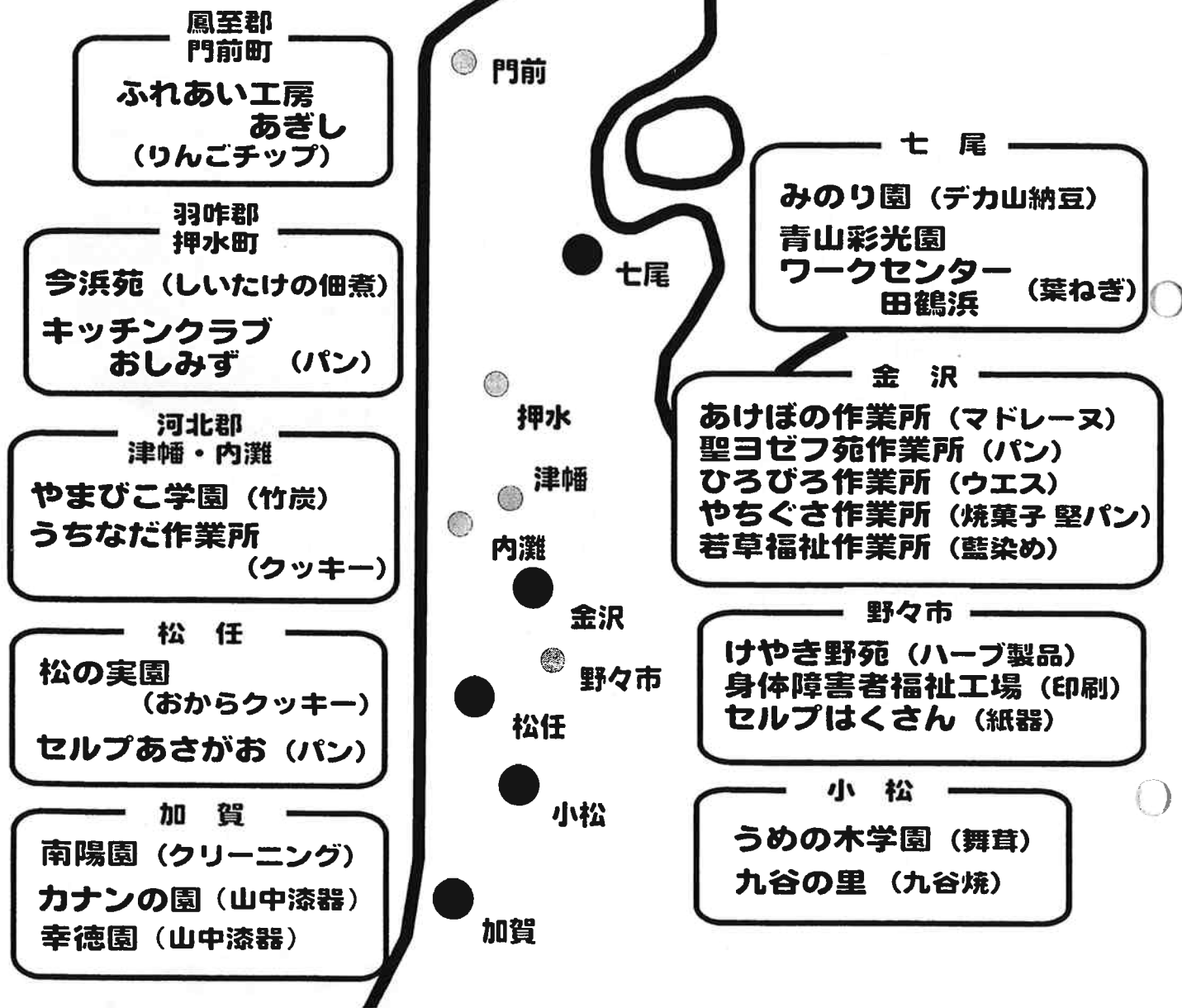
職員を対象としたセルフニュース第1号を12月に発行しました。



アルプラザ鹿島でのセルフバザール

石川県

社会就労センター



石川県社会就労センター利用者数 平成9年11月1日現在

種別	項目	定員(人)	現員(人)	充足率(%)
A.	知的障害施設	664	647	97
A.	身体障害施設	323	268	83
B.	小規模作業所	184	148	80
合計		1,171	1,063	91

A. 会員施設 B. 準会員施設

事務局紹介

4月よりセルプ協、振興センター両事務局をしております村田です。今年より振興センターが発足したということで、難しい面もありますが、大変やりがいのある仕事をいただきうれしく思っております。センターが発足したばかりということもありまして、皆さんにご迷惑をかけることもあるかとは思いますが、セルプ協会長、センター長・運営委員の皆さんと一生懸命頑張りますので、今後ご指導、ご協力をお願いいたします。

事務局 石川県社会福祉協議会内
TEL 076-224-1212
FAX 076-222-8900
(題字 湊 孝次郎 氏 著)